

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

東京農業大学教職課程 *Annual Report*

令和6年度版

オープンキャンパス



金属加工



教職実践演習



TEAM NODAI

学校・東京農大・地域

地学実験（城ヶ島）



高大連携 東京都立園芸高等学校



総合的な学習の時間教育法



学外学習
オホーツク・文化交流センター



世田谷キャンパス・厚木キャンパス・北海道オホーツクキャンパス

東京農業大学教職課程

令和5年度 農大教職課程世田谷・厚木キャンパス 主な活動報告

4月 新入生教職課程ガイダンス
教育委員会による教員採用学内説明会（～5月）
令和6年度採用教員採用試験大学推薦学内説明会及び選考

5月 教員採用試験教育法規・学習指導要領勉強会
教育ボランティア募集説明会
4年生教育実習開始

6月 教員採用試験1次対策集中講座
1年生教職課程履修申込ガイダンス
1年生教職課程履修申込

7月 介護等体験への派遣開始

8月 オープンキャンパス
教員採用試験2次対策直前講座

9月 令和7年度採用教員採用試験対策講座開講
教採対策講座・教員採用試験合格者から学ぶ

10月 1年生教職課程履修開始

11月 第25回東京農大教育研究フォーラム
教採対策講座・教員採用試験合格者から学ぶ
教育委員会による教員採用学内説明会（～12月）

12月 世田谷・厚木合同第5回教育実習全体指導

2月 合格体験発表会

3月 教員採用試験1次対策集中講座
卒業式（教員免許状授与）



本学で取得できる免許状※

■普通免許状

学 科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
農学部 農学科 動物科学科 生物資源開発学科 デザイン農学科	理科 理科 理科 —	理科・農業 理科・農業 理科・農業 農業
応用生物科学部 農芸化学科 醸造科学科 食品安全健康学科 栄養科学科	理科 理科 理科 理科	理科・農業 理科 理科・農業 理科
生命科学部 バイオサイエンス学科 分子生命化学科 分子微生物学科	理科 理科 理科	理科・農業 理科・農業 理科・農業
地域環境科学部 森林総合科学科 生産環境工学科 造園科学科 地域創成科学科	理科・技術 理科・技術 理科 —	理科・農業 理科・農業 理科・農業 農業
国際食料情報学部 国際農業開発学科 食料環境経済学科 アグリビジネス学科 国際食農科学科	理科 社会 — —	理科・農業 地歴・公民・農業 農業 農業
生物産業学部 北方圏農学科 海洋水産学科 食香粧化学科 自然資源経営学科	— 理科 理科 社会	農業 理科 理科 公民

■栄養教諭免許状

学 科	免許状の種類
応用生物科学部 栄養科学科	一種免許状

教員採用試験対策講座（全27回） —現職教員による充実したサポート—

1年間に27回の講座を行っている教員採用試験対策講座は、学部
の2・3年生を主な対象としています。

昨年度の選考で合格した若手先輩教員においでいただき、直接体験
談をおうかがいする講座が、最初のガイダンスでした。その後、教育
原理、教育法規、教育心理、論文文指導、面接指導、専門教科指導など、
様々な講座を展開しています

今年は学生の自主ゼミが作る取り組みも進めています。1月に、世
田谷キャンパスで2組、厚木キャンパスで1組、合計3組の自主ゼミ
が3年生有志で結成されました。選考合格に向けて活動を始めていま
す。



令和5年度 ベストティーチャー賞

教職課程教育学研究室緩利真奈美助教が教職
課程科目「教育課程論」（2年前期）の授業によ
り、「2023年度ベストティーチャー賞」を受賞し、
他受賞者10名とともに、令和5年9月9日（火）
に表彰されました。

ベストティーチャー賞は教職課程では2人目
の受賞となります。



令和5年度 教職課程履修者数

学年	1 年生 (2023)										2 年生 (2022)										3 年生 (2021)										4 年生 (2020)										学科計
学科・資格種別	人数	農業	中学 理科	高校 理科	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養	人数	農業	中学 理科	高校 理科	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養	人数	農業	中学 理科	高校 理科	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養	人数	農業	中学 理科	高校 理科	技術	社会	地歴	公民	情報	栄養	
農学科	35	23	23	23	*	*	*	*	*	*	22	11	14	16	*	*	*	*	*	*	16	8	10	12	*	*	*	*	*	*	25	21	11	13	*	*	*	*	*	*	98
動物科学科	26	16	15	16	*	*	*	*	*	*	18	10	11	11	*	*	*	*	*	*	22	11	11	15	*	*	*	*	*	*	26	12	16	17	*	*	*	*	*	*	92
生物資源開発学科	22	10	16	19	*	*	*	*	*	*	16	4	10	14	*	*	*	*	*	*	22	4	17	20	*	*	*	*	*	*	21	6	17	20	*	*	*	*	*	*	81
デザイン農学科	11	11	*	*	*	*	*	*	*	*	14	14	*	*	*	*	*	*	*	*	10	10	*	*	*	*	*	*	*	*	7	7	*	*	*	*	*	*	*	42	
厚木 計	94	60	54	58	0	0	0	0	0	0	70	39	35	41	0	0	0	0	0	0	70	33	38	47	0	0	0	0	0	0	79	46	44	50	0	0	0	0	0	0	313
農芸化学科	5	1	4	4	*	*	*	*	*	*	10	6	6	7	*	*	*	*	*	*	14	2	14	14	*	*	*	*	*	*	9	2	8	9	*	*	*	*	*	*	38
醸造科学科	7	*	7	7	*	*	*	*	*	*	8	*	7	8	*	*	*	*	*	*	16	*	16	15	*	*	*	*	*	*	12	*	9	12	*	*	*	*	*	*	43
食品安全健康学科	7	*	7	7	*	*	*	*	*	*	6	1	6	5	*	*	*	*	*	*	12	3	10	10	*	*	*	*	*	*	9	1	7	8	*	*	*	*	*	*	34
栄養科学科	22	*	2	2	*	*	*	*	*	20	11	*	5	5	*	*	*	*	*	11	23	*	1	1	*	*	*	*	*	23	13	*	3	3	*	*	*	*	*	11	69
バイオサイエンス学科	36	5	36	36	*	*	*	*	*	*	16	1	14	16	*	*	*	*	*	*	22	2	20	21	*	*	*	*	*	*	15	0	14	15	*	*	*	*	*	*	89
分子生命化学科	15	2	12	15	*	*	*	*	*	*	10	2	9	10	*	*	*	*	*	*	20	1	18	20	*	*	*	*	*	*	15	2	12	13	*	*	*	*	*	*	60
分子微生物学科	14	3	13	13	*	*	*	*	*	*	13	1	12	13	*	*	*	*	*	*	14	7	11	12	*	*	*	*	*	*	14	2	13	13	*	*	*	*	*	*	55
森林総合科学科	34	20	13	13	18	*	*	*	*	*	21	10	8	8	15	*	*	*	*	*	30	16	11	12	16	*	*	*	*	*	21	9	12	13	9	*	*	*	*	*	106
生産環境工学科	16	8	7	7	11	*	*	*	*	*	25	10	9	10	20	*	*	*	*	*	22	10	16	16	17	*	*	*	*	*	19	8	11	14	4	*	*	*	*	*	82
造園科学科	14	8	8	8	*	*	*	*	*	*	11	7	7	6	*	*	*	*	*	*	10	5	5	5	*	*	*	*	*	*	8	3	6	6	*	*	*	*	*	*	43
地域創成科学科	7	7	*	*	*	*	*	*	*	*	7	7	*	*	*	*	*	*	*	*	8	8	*	*	*	*	*	*	*	*	9	9	*	*	*	*	*	*	*	*	31
国際農業開発学科	21	9	14	17	*	*	*	*	*	*	23	17	13	15	*	*	*	*	*	*	26	15	18	17	*	*	*	*	*	*	21	12	13	13	*	*	*	*	*	*	91
食料環境経済学科	18	7	*	*	*	10	14	5	*	*	18	5	*	*	*	8	11	10	*	*	23	7	*	*	*	10	14	4	*	*	25	13	*	*	*	13	17	10	*	*	84
国際バイオビジネス学科	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	3	3	*	*	*	*	*	*	*	*	1	1	*	*	*	*	*	*	*	*	2	2	*	*	*	*	*	*	*	*	6
アグリビジネス学科	6	6	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	6
国際食農科学科	14	14	*	*	*	*	*	*	*	*	10	10	*	*	*	*	*	*	*	*	9	9	*	*	*	*	*	*	*	*	13	13	*	*	*	*	*	*	*	*	46
世田谷 計	236	90	123	129	29	10	14	5	0	20	192	80	96	103	35	8	11	10	0	11	250	86	140	143	33	10	14	4	0	23	205	76	108	119	13	13	17	10	0	11	883
北方園農学科	14	14	*	*	*	*	*	*	*	*	19	19	*	*	*	*	*	*	*	*	18	18	*	*	*	*	*	*	*	*	12	12	*	*	*	*	*	*	*	*	63
海洋水産学科	9	*	7	9	*	*	*	*	*	*	6	*	6	6	*	*	*	*	*	*	16	*	15	16	*	*	*	*	*	*	11	*	9	11	*	*	*	*	*	*	42
食香粧化学科	9	*	7	9	*	*	*	*	*	*	15	*	15	15	*	*	*	*	*	*	10	*	10	10	*	*	*	*	*	*	4	*	4	4	*	*	*	*	*	*	38
自然資源経営学科	11	*	*	*	*	7	*	11	*	*	5	*	*	*	*	4	*	5	*	*	8	*	*	*	6	*	8	*	*	*	8	*	*	*	6		8	*	*	32	
オホーツク 計	43	14	14	18	0	7	0	11	0	0	45	19	21	21	0	4	0	5	0	0	52	18	25	26	0	6	0	8	0	0	35	12	13	15	0	6	0	8	0	0	175
大学 計	373	164	191	205	29	17	14	16	0	20	307	138	152	165	35	10	11	13	0	11	372	137	202	216	33	16	14	12	0	23	319	134	165	184	13	19	17	18	0	11	1371

*各学年、入金実績より算出

令和5年度 教育実習全体指導

東京農大教職課程では教育実習に向けて、3・4年次に全7回の教育実習全体指導を行います。例年12月に実施される2・3年生を対象とした全体指導では、現場の校長先生をお招きし「教育実習にあたっての心構え」をご教授いただいております。

令和5年度は12月9日(土)に世田谷区立駒留中学校校長加瀬康夫先生にご講演いただきました。加瀬先生は教育実習に臨むにあたり、まず教育実習に来る＝将来教員になることであり、自分はなぜ教員になりたいのか、教員に向いているか、今後の課題は何かについて謙虚に考えることをアドバイスして下さいました。教員の大切さを易しく解説される加瀬先生に学生は聴き入っていました。

当日午前中には栄養教諭の全体実習指導が行われ、埼玉県学校栄養士研究会会長今井ゆかり先生のご講演がありました。

令和5年度 OBOG 教員による体験的学び
海外からの ZOOM 授業

教職課程必修科目「教育原理」(1年後期)では「教育はなぜ必要なのか」「なぜ学校へ行くのか」について、教育の原点に戻って考えます。令和5年度は現職を保持したまま現在海外滞在中の20代30代の卒業生とZOOMを繋ぎ、現地の教育を通して得たお二人の「体験的学び」をうかがいました。

開発学科OGで埼玉県公立中学校理科教諭山田(眞保)都先生は、文部科学省が派遣する独立行政法人国際協力機構(JICA)の「現職教員特別参加制度」を利用し、青年海外協力隊としてガーナ女子教員養成校で令和5年7月から2年間の予定で教鞭を取っています。とにかく生徒が明るく元気。山田先生も寮で一緒に生活し、ガーナの教育文化を体験しています。「日本で当たり前と思うことも外国に出れば違う、おかしいと感じることもある。国の大きなことを変えることは難しい。でも小さなことを地道に行い、一緒になって動いてくれる人を少しでも増やしたい」と、山田先生は教育者としての熱い思いを語って下さいました。

経済学科OBで東京都立中等教育学校社会科教諭の箱崎純一先生は、現職のまま海外の大学院で学ぶ制度を利用し9月から1年間、英国ヨーク大学大学院グローバルエデュケーション専攻修士課程で学んでいます。英語とは全く無縁だった箱崎先生ですがコロナ禍に一念発起し英語力アップを図り、大学院では多国籍の仲間と共に「市民」としての考え方・学び方・教え方の体得を目指します。修士論文のテーマは“An examination of challenges to citizenship posed by knowledge transmission based history education in high schools in Tokyo; perspectives from teachers in public high schools in Tokyo”。“自分の言葉で自分の意見を語ることが大事」と嬉しそうに箱崎先生は語って下さいました。

現職教員でも様々な制度を活用して国際化に貢献し、専門力アップにチャレンジしている山田先生と箱崎先生の姿は、「教職」の懐の深さと魅力を改めて学生に伝えてくれました。



第25回 東京農大教育研究フォーラム

東京農大教育研究フォーラムは、本学教職課程が主催し全国教職員部会連絡協議会が共催、東京農業大学校友会及び東京農業大学教育後援会から後援をいただいている企画です。教育実習校および本学校友会教員との結びつきを深め、大学から新しい情報を発信するねらいがあり、令和5年で、25回目を数えています。2023年11月25日（土）に世田谷キャンパス・サイエンスポート8階・エアブリッジで開催いたしました。



今回のテーマは現在喫緊の課題である ICT です。これからの小中高等学校の理科の授業の在り方についての講演と、学校教育現場で役立つような ICT 活用実践力を養うワークショップを行いました。

まず、本学教職課程の山口晃弘教授による「ICT を活用した『新しい理科授業』」というタイトルの講演を行いました。講演の趣旨は以下の通りです。

学校にクラウド環境と接続された 1 人 1 台端末が導入され、協働学習や校外・家庭における学習がしやすくなった。これは、好むと好まざるとにかかわらずやってくる大きな波、その波が教育界にも押し寄せてきているのだ。その波に乗って、よい理科の授業を創造しよう。

さらに、学校教育での ICT 活用実践力を養う以下の 8 名の現役教員による 8 つのワークショップを行いました。

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| ● 品川区立鈴ヶ森中学校
副校長 大山 剛史 先生 | 「技術分野における ICT 活用」 |
| ● 世田谷区立千歳中学校
主任教諭 青木 久美子 先生 | 「ICT で授業を創る」 |
| ● 杉並区立富士見丘中学校
指導教諭 中島 誠一 先生 | 「ICT — 敷居の低い始め方 —」 |
| ● 世田谷区立駒沢中学校
指導教諭 内藤 理恵 先生 | 「探究の過程と ICT」 |
| ● 世田谷区立桜丘小学校
主任教諭 塚越 裕貴 先生 | 「文房具としての ICT」 |
| ● 東京都立園芸高等学校
指導教諭 戸部 孝綱 先生 | 「センシングデータの活用」 |
| ● 東京農業大学第三高等学校
教諭 中村 有哉 先生 | 「ICT で変わる授業」 |
| ● 東京農業大学教職課程
助教 實野 雅太 先生 | 「ICT 時代における技能伝達」 |



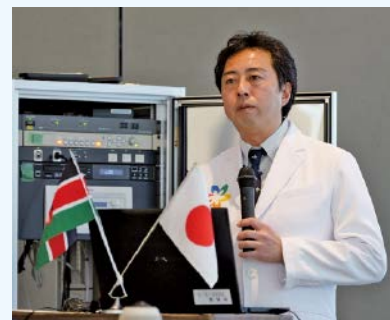
対面の参加者は、100 名を越え、それとは別に数十名のオンラインでの参加者もありました。4 時間に及ぶ長時間のフォーラムとなりましたが、講師やゲストスピーカーと、本学学生、教育実習先の先生、校友会会員などが交流し、25 年目の記念にふさわしい盛況となりました。



研究最先端 産学共同研究

アメリカザリガニの
持続可能な資源化研究

武田 晃治 教授（東京農業大学教職・学術情報課程 理科教育研究室）



2023年12月8日（金）午後、「ザリガニの資源活用」をテーマに東京農業大学でミニシンポジウムが開催され、本学学長・副学長をはじめケニア人留学生、ケニア大使館ならびに農林水産省、ケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学副学長とマシュー博士（Zoom参加）、ロビン社長など国内外から多くの参加者がありました。イベントの第1部では、「ザリガニの栄養学的研究や教育活動」、「ケニアでの食資源としてのザリガニの有用性」、次いで「ケニアでのザリガニ養殖事情や今後の計画」について発表が行われました。第2部では近茶流 柳原尚之氏によるザリガニの和風創作料理に加えて、スープ・塩茹で・煎餅、ケニア流ザリガニ料理が提供されました。南部美人から日本酒や梅酒が提供され、本プロジェクト研究で新たに発見したザリガニの「うま味」を活かした和食料理と酒による相乗効果を堪能しました。本イベントは新聞、雑誌、テレビなど、様々なメディアに取り上げられました。



▲ 柳原先生の和食創作料理



▲ ケニア流ザリガニ料理



▲ 左から、久慈社長、柳原先生、武田教授、ロビン社長

アメリカザリガニ（以下、ザリガニ）は、日本では2023年6月より条件付き特定外来生物に指定されています。規制以前からも緊急対策外来種として駆除され主に殺処分されていますが、最近、食材としての扱いも見受けられます。しかしながら、駆除したザリガニの利活用はそのほとんどが一時的なものであり、持続可能な活用には至っていません。武田先生はここに着目しました。

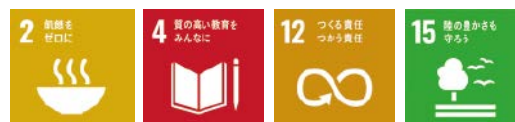
実はザリガニは、持続可能な食用資源として世界で大規模に養殖されています。中国次いで米国が主な生産国です。このように世界的に需要のある生物であるにもかかわらず、日本では未利用資源のままです。ザリガニは捨てる場所のない資源としての活用が可能であり、世界的には食用以外に、医療用や農業用資材としても活用されています。そのため、ザリガニの資源化に向けた研究は、新たな持続可能な資源開発につながります。また、将来の食料問題解決、特にタンパク質の確保は世界的にも重要な課題で

あることから、一つの解になる可能性も秘めています。

日本と同様、ザリガニが未利用資源になっている国がアフリカにあります。アフリカの一部の国や地域では食用としているが、持続可能な資源としての活用はされていません。近年、ケニアの養殖会社キスメオ・オーガニクスが、アフリカ大陸初のザリガニ養殖をスタートしたばかりです。ケニアでの新たな雇用創出や持続可能な食料確保を目的としていたキスメオ・オーガニクスの創設者でCEOのロビン社長は、ある時、英国雑誌（OPEN ACCESS GOVERNMENT July 2020）に掲載された武田先生のザリガニ研究に関する記事に出会います。この出会いがきっかけで、武田先生を中心とする東京農業大学の研究グループと本学の協定校でもあるケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学（JKUAT）、キスメオ・オーガニクスとの産学連携の共同研究が始まりました。

「アメリカザリガニの持続可能な資源化研究」は現在取り組んでいる機能性付与ザリガニや養殖方法に関する研究成果をケニアでの養殖に活かし、今後は産学共同のザリガニプロジェクト研究として、多様な分野の専門家と連携しながら進めていきます。

ザリガニ SDGs



オホーツク特集

東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス 教職課程

課程紹介



北海道の北東に位置する網走市に東京農業大学北海道オホーツクキャンパスは位置しており、生物産業学部4学科の在校生と教職員が元気に活動を展開しています。生物産業学部の教職課程もその一つのセクションとして、試行錯誤を重ねながら新しい取り組みに毎年チャレンジしています。

オホーツクキャンパスには4つの学科があり、寒冷地の農業や自然についての研究、オホーツク海周辺の自然環境についての研究、北海道の生産物を活用した食品や香料・化粧品企画開発研究、北海道の自然を生かした経営・経済活動の研究、といったどれもオリジナリティ溢れるテーマについて取り組むことが出来る魅力あるキャンパスです。

教職課程はこの4つの学科から受講生が集まり、学科科目や実験・調査とは異なるメンバーとの交流がなされます。部やサークル・同好会活動で一緒になるメンバーとも異なる、お互いの価値観は異なるが一つのテーマについてより良い結論を目指してディスカッションをすることも教職活動の特色です。近年積極的に取り組んでいるカリキュラムとして、①近隣小学生の定期的な学習サポート、②自分の好きなテーマについて探究するプロジェクト活動、③先輩－後輩がペアになって授業を行う能力を高め合うメンタリング活動、などが挙げられます。

特に学外で実施される学習サポート活動は教職免許科目として取り扱われており、網走市教育委員会との連携によっておおよそ毎月一回開催しています。参加した小学生・保護者からも好評で、実施回数や開催時間帯の延長等の要望が寄せられるほど、オホーツクキャンパスの教職課程履修学生は人気があります。

常勤の課程教員は現場実践・学校運営のエキスパートである西村一夫先生と、脳科学・心理学専門の後藤広太郎先生の二人がコンビを組み、道内外の非常勤講師約20名と連携しながら、受講生の講義や実習のサポートに取り組んでいます。



左から、学生教務課小林さん、郷倉さん、教職課程後藤先生、西村先生

東京農大 OB 教員通信

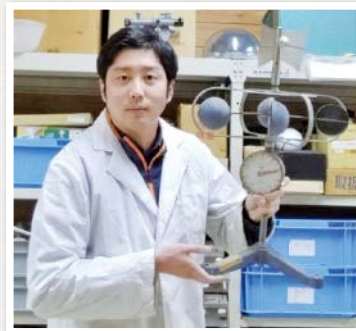


長野県稲荷山養護学校 中学部

伊野 佑紀

(アクアバイオ学科卒)

私が現在勤務している稲荷山養護学校は、知的障がいと肢体不自由の並置校です。初任で赴任し、現在3年目です。講師としての期間が長く、それまでは別の特別支援学校(ろう学校)に勤務していました。特別支援学校



の免許は在学中に取得できないため、卒業後に取得しました。もともと特別支援の世界を目指していたわけではありません。ただ、理科が好きだから、高校卒業後ももうちょっと理科の勉強をしていたかったから、そんなモラトリアムの中にいた私が、教員を目指そうと心に決めた理由は、東京農大の教職課程でした。

正直なところ、教員を目指した一番のきっかけは、教育実習と、そこで校長先生からいただいた激励の言葉だったのですが、そこにたどり着くまでの授業が楽しかった、というのが教員を目指すことができた一番の要因だったのだと、今になって思います。自分がこれまで学ぶ側だった理科の授業を、教える側の目線で考える理科教育法や、教育を抜きにしても純粋に興味深い内容だった教育心理学など、学びが楽しかったからこそ、遅い時間の講義が多い教職課程でも、辞めずに最後まで受講できたのだと思います。当然、学部での学びも理科の専門性を高めるうえでとても貴重な経験でした。3・4年時の卒論にかかわる研究、生態系や漁業に関する講義、さらには部活動で文字通り(車で)走り回った北海道の大自然での多くの経験が、私という人間の確立に大きな影響を与えています。もう4年くらい北海道で生活したい、なんて思います。

先ほど、特別支援学校で勤務している、と書きましたが、現在は(ろう学校でも)中学部で理科の授業を担当しています。聴覚障がいや肢体不自由に関しては大学では全く考えてもみなかった世界ですが、それでも、理科の授業は変わりません。生命の不思議、実験の楽しさ、薬品の危険性、そんな理科の楽しさを伝えられる教師を目指して今も勉強を続けています。

現在オホーツクキャンパス教職課程の理科に関する講義の非常勤講師もしており、年二回ほど網走を訪れています。受講生の皆さんと会えることを心より楽しみにしております。

Photoで探る



特集：オホーツク・カラー

つながる。

人と人がつながるためには、互いの信頼関係が大切です。



網走市教委主催の学習支援事業「あばしり寺子屋」では、子供の思いに寄り添った言葉をかけながら支援します。



同級生同士、先輩と後輩の異学年同士の支え合いと学び合いのメンタリング活動では笑顔で第一に腕を磨き合います。

ひろがる。

日常の座学や学生生活で習得した知識技能を広げ活用します。



数年ぶりに全面開催された収穫祭に教職課程が出店した「沖縄そば」にも地域の皆さんが訪れ、多くの好評を得ました。



前学期と後学期の教職に関する必修科目では、基礎基本的内容に加え、応用発展的内容を世田谷キャンパスの専門家から学びます。

ふかめる。

各科目に配置された複数教員から専門的知識を学び深めます。



多くの道内外の現職教員、農大OB、世田谷キャンパスの教員が対面やZoom双方向等で講義をします。



市内公立学校の公開研究会に参加し、現場の授業を見たり反省協議会で意見を述べたりし、関係者から評価されています。

きわめる。

興味関心のあるテーマについて高度な探究活動を行います。



学生が好きなテーマを決め、運動・睡眠・香り等の環境は学習効果にどんな影響を与えるか考察し、学会で発表します。

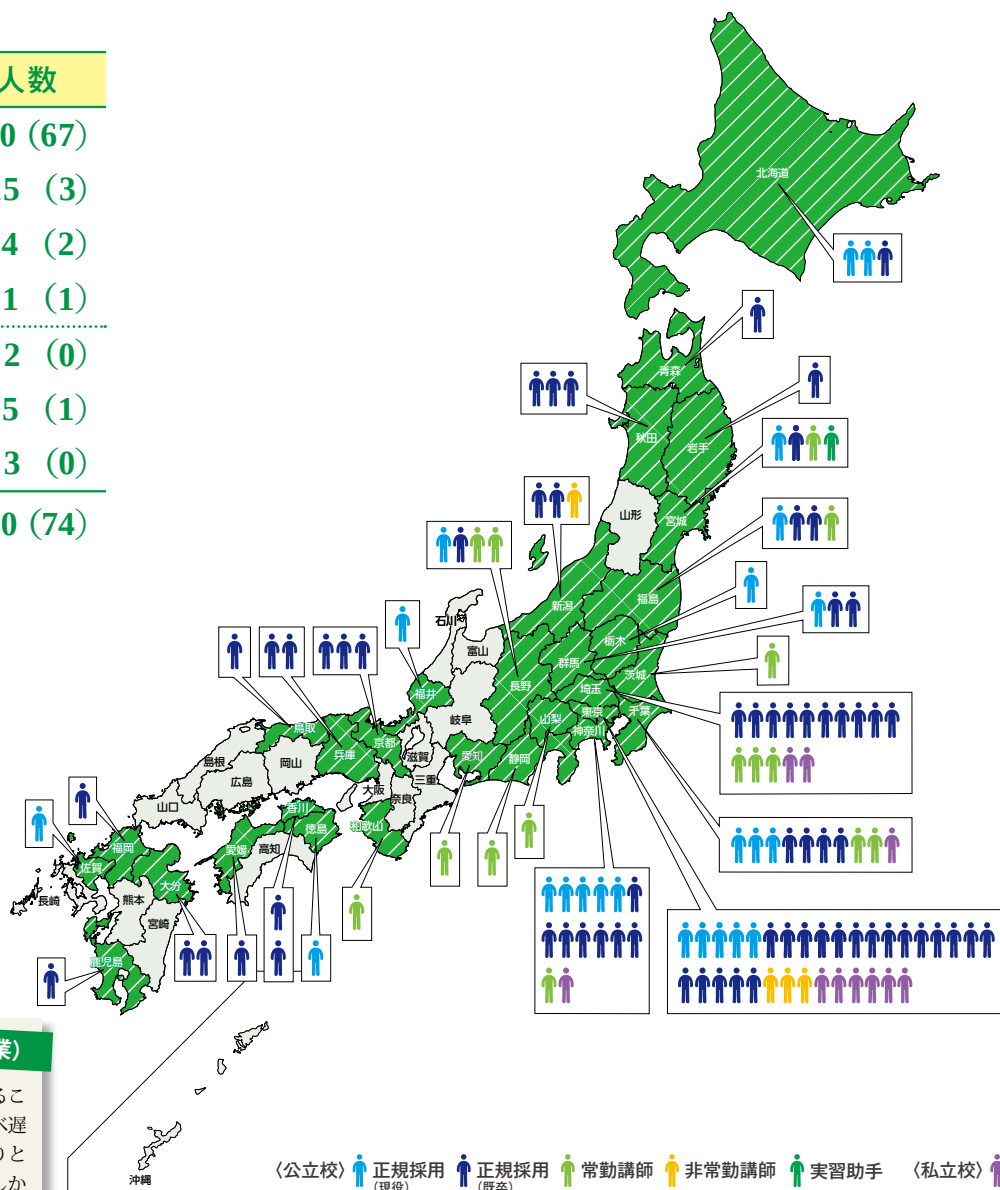


前・後学期各1回の教職課程主催「地域公開講義」では、社会に開かれた教育を学び、プロジェクト活動を発表します。

令和6年度 教員採用者数&合格者の声

採用種別	人数
●正規採用（公立）	90 (67)
●常勤講師（公立）	15 (3)
●非常勤講師（公立）	4 (2)
●実習助手	1 (1)
●正規採用（私立）	2 (0)
●常勤講師（私立）	5 (1)
●非常勤講師（私立）	3 (0)
総計	120 (74)

※令和6年4月1日現在。カッコ内は既卒者。
 ※大学院生・科目等履修生は既卒者扱い。
 ※公立校正規採用合格者数の集計につきましては、全国の各教育委員会にご協力をお願いしました。誠にありがとうございました。



宮城県公立高校合格（農業）



教職課程を履修することは、他の学生と比べ遅くまで学校に残ったり大変かと思います。しかし、努力を積み重ねれば、きっと結果がついてきます。理想の先生を目指して、最後まで頑張ってください。応援しています。

（分子微生物学科・令和6年3月卒）

徳島県公立中学校合格（理科）



私は教職の勉強をしながら森林に関する専門分野を学ぶために農大に入学しました。日々の授業数は通常の学生よりも多く大変でしたが、教職課程で出会った仲間と支え合い教師という夢を掴むことができました。

（森林総合科学科・令和6年3月卒）

千葉県公立高校合格（農業）



自分の人生で起こる全てが経験になります。目の前で起きている事を自分の為になると信じて多くを吸収してほしいと思います。答えが無いように思える教員採用試験を突破できるように頑張ってください。苦しんだ分、未来は明るいです。

（地域創成科学科・令和6年3月卒）

長野県公立中学校合格（技術科）



教職課程と学科の講義で忙しい中で部活にも所属していたため、とても忙しい日々を過ごしていました。実学主義の下、実際に動いて学んだことを活かして教師の道を進んでいきますので、教員を目指す方は全力で頑張ってください。

（森林総合科学科・令和6年3月卒）

福井県公立高校合格（農業）



教職課程は人より履修が多く大変な面があると思います。しかし、そこで学んだ知識や得た技術は一生の宝となります。人生において貴重な4年間メリハリある大学生活を送ってください。教員採用試験は思い切り挑戦するだけです！（農学科・令和6年3月卒）

東京都公立小中合格（理科）



教職の道に進むうえで様々な困難があると思います。しかし、その分受かった時の達成感も凄まじいものです。最後まで気を抜かず、時には運も味方につけ頑張ってください。（分子微生物学科・令和5年3月卒）
（分子微生物学専攻・令和6年3月中退）

神奈川県公立高校合格（農業）



自信がない人へ。「やれるところまでやるぞ！人生経験だ！」という気持ちで取り組んでみてください。一つずつマイペースに進んでいると少しずつ自信がついてきます。良くも悪くも「自分の人生」。自分らしく頑張ってくださいね！（地域創成科学科・令和6年3月卒）

群馬県公立高校合格（農業）



教職課程と必修科目等の授業との両立はとても大変でしたが、同じ目標を持つ仲間と切磋琢磨しながら教員採用試験の勉強を乗り越え、合格する事ができました。自分が目指す教師像・未来像に向けて、皆さんも頑張ってください！！（国際食農科学科・令和6年3月卒）

福島県公立高校合格（農業）



教職課程では教員を目指す多くの学生と関わる機会ができます。自分の教員としての理想像も仲間との想いも大切に、すてきな教師になってください。時には大変な場面にもぶつかるともあるかもしれませんが、自信を持ってください。（国際バイオビジネス学科・令和6年3月卒）

東京都公立小中合格（理科）



理科教員志望の方は東京都では「小中理科」という選択肢が増えました。小学校の専科の先生も視野に入れてみませんか？理科を四科目すべて教えられます。試験勉強は色々ありますが、自分のやり方で合格を目指しましょう！（分子微生物学専攻・令和7年3月修了見込）

東京都公立中高合格（特支理科）



教育実習やボランティア活動等、大変なことは沢山ありましたが、全部良い経験になりました。正直、教員になれるか不安でしたが、今までの経験と周りの方が支えになり、合格できました。皆さんも夢を諦めず、頑張ってください。（分子生命化学科・令和6年3月卒）

栃木県公立中学校合格（理科）



教職課程を履修したことで、忙しい日々を過ごしていることかと思えます。しかし、その経験は今しかできないことで、一生の思い出になります。今を全力で取り組み、採用試験だけでなく、結果は後からついてきます！今に生きよう！（動物科学科・令和6年3月卒）

千葉県・千葉市公立中高合格（理科）



履修が多く、学科の勉強や部活動と両立することは大変でしたが、その分のやりがいがあり充実した大学生活を送ることができました。教職課程の仲間と共に夢に向かって頑張ってください！先輩として陰ながら応援しています。（生物資源開発学科・令和6年3月卒）

横浜市公立中学校合格（技術科）



大学入学当初は教員を志望していませんでした。しかし、教職課程での学びや、学校ボランティア、教育実習を通して教員になることを決意しました。農大で出会った先生方や周りの人たちはとても良い人が多いかと思えます。皆様も健康に気を付けて頑張ってください。（森林総合科学科・令和6年3月卒）

東京都公立中高合格（理科）



大学で経験したほとんどが学びに繋がりました。それは何も授業や実習に限った話ではなく、学ぶ姿勢次第で教材はそこら中にあります。私は教員として、皆さんは教員を目指すものとして、日々を糧に一緒に頑張りましょう！（生物資源開発学科・令和6年3月卒）

千葉県・千葉市公立中学校合格（理科）



学科と教職の両立は他の学生よりも大変だと思いますが、頑張った先には明るい未来が待っています！この学生生活で多くの方と関わりながら様々な経験を積み、たくさん学んで楽しんでください！応援しています！！（国際農業開発学科・令和6年3月卒）

佐賀県公立中学校合格（技術科）



大学に入学して4年後、「佐賀で教員になる」という強い意志を持って勉学に励みました。初志貫徹の精神で、粘り強くやり通したことが、成功への秘訣だと感じました。今まで支えてくれた方々への感謝を忘れず、夢を掴んで下さい！（生産環境工学科・令和6年3月卒）

東京都公立中学校合格（技術科）



中学生時代から教員になりたいと考えており、教職課程の履修を決めました。学科の勉強との両立など辛いと思う瞬間もあると思います。しかし切磋琢磨できる仲間たちや、教育実習での生徒たちとの出会いは、その辛さを忘れられるほど素晴らしい宝物になることと思います。（森林総合科学科・令和6年3月卒）

北海道公立高校合格（農業）



教育実習や採用試験など先のことを不安に感じてしまうこともあるとは思いますが、一日一日を大事に過ごしてほしいと思います。一つずつ丁寧に確認をしながら進めていけば良い結果に結びつくと思うので一歩ずつ頑張ってください。（農学科・令和6年3月卒）

令和6年度 教職課程世田谷・厚木キャンパス 主な年間スケジュール

- 新入生へのガイダンス・オンデマンド配信<4月～5月>
- 教育委員会担当者による採用説明会（学内）<4月～5月>
- 学校ボランティア説明会<5月>
- 教育実習生の派遣<5月～11月>
- 1年生教職課程履修申し込み<6月>
- 介護等体験への派遣<3年生 7月～2月>
- オープンキャンパス<8月3日(土)・4日(日)>
- 教員採用試験対策講座の開催<9月～翌年8月>
<講座全27回、模擬試験3回予定>
- 教育研究フォーラムの開催<8月24日(土)>

第26回 東京農大教育研究フォーラム

講演テーマ：「探究学習の導入・実践」

開催日時：令和6年8月24日（土）13：00～

開催場所：世田谷キャンパス（オンライン参加も可能）

共催：東京農業大学教職課程／全国教職員部会連絡協議会 後援：東京農業大学校友会／東京農業大学教育後援会

※ 詳しくは、5月下旬頃東京農大ホームページをご覧ください。

令和5年度東レ理科教育賞・企画賞受賞 東京農大教職課程 山口 晃弘 教授

教職課程山口晃弘教授が「スモールステップを組み合わせる探究的な学びの創造」をテーマとした授業開発及び実践の提案により、「令和5年度東レ理科教育賞・企画賞」を受賞されました。本賞は「中学校・高等学校の理科教育において、新しい発想と工夫考案にもとづいた企画・開発で、開発後は東レ理科教育賞への応募が期待されるもの」を公益財団法人東レ科学振興会が表彰するもので、文部科学省が後援しています。

山口先生は本企画について「『探究的な学び』のある授業を普及させたい。そのために、単元を貫いて探究学習を進めるような大がかりな計画ではなく、探究の過程の一部分をスモールステップの実践としてとらえ、それを組み合わせる授業を開発する。単元の学習計画を変えずに『誰でも無理なくできる』実践しやすい授業実践の事例を収集し、公開したい」と解説されています。

東京農大教職課程教員・新刊案内

山口晃弘教授（単著）『中学校理科がもっと楽しくなる一人一人端末の活用』☞ A

（東洋館出版社、2023年7月、¥2200＋税）

GIGAスクール構想によって1人1台端末の普及が進み、理科の授業も様変わりしました。教育DXの大きな波が押し寄せてきています。その一方で「端末の操作が苦手」「端末を活用した授業展開がよく分からない」「これまでの授業スタイルを崩したくない」などと感じている先生方もいるかもしれません。本書では、教師も生徒も楽しく取り組める便利なコンテンツを活用した事例を山口先生が中学理科の授業から、30例紹介しています。「まずは試してみよう！」の精神で始めてみませんか？

熊澤恵里子教授（共著）：『現代思想 平田篤胤』12月臨時増刊号 ☞ B

（小川豊生・斎藤英喜・山下久夫・宮地正人他著、青土社、総頁510頁、2023年12月、¥3000＋税）

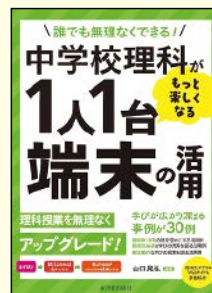
没後180年、稀代の思想家の正体に迫る。こうした思想家がなぜ現れたのか、そもそも平田篤胤とは何者なのか。幕末・維新の動乱期に、大きな影響をあたえ、現在もお人々をひきつける平田篤胤という存在に38名の研究者がさまざまな分野からアプローチしました。熊澤先生は日本教育史研究から、「民衆はなぜ篤胤の語りに魅せられたのか」と題して、川柳を多用した彼の講釈手法に「笑いの効用」を指摘するとともに、古道学に漢学洋学をも活用する「和魂万国才」の思想を明らかにしました。

鈴木聡志准教授（共訳書）：『心理学における質的研究の論文作法——

APAスタイルの基準を満たすには』☞ C

（ハイディ・M・レヴィット著 能智正博他訳、新曜社、2023年11月、¥3,600円＋税）

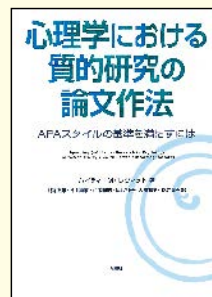
アメリカ心理学会（APA）の論文作成マニュアルに質的研究論文執筆のための基準が組み込まれました。この基準を論文の作成に際してどのように適用していけばよいのかを、基準作成において中心的な役割を果たした著者が解説したのが本書です。翻訳に当たったのは6名で、鈴木先生は全10章中の2つの章「方法論の整合性——研究の忠実性と有用性を高める」、「研究のミッションをどう定めるか——タイトルページ、アブストラクト、序論」を担当しました。



A



B



C

東京農業大学教職課程

<https://www.nodai.ac.jp/academics/edu/>

東京農業大学教職課程 Annual Report [令和6年度版] 世田谷キャンパス・厚木キャンパス・北海道オホーツクキャンパス編

東京農業大学教職課程

No.10 2024年4月23日

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

編集人 熊澤恵里子・實野雅太

e-mail:kyosyoku@nodai.ac.jp



東京農業大学は持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け貢献しています。